

読書活動を通じた取組

語彙力の育成と表現力の向上を目指して

発表者① 野口 勇輝 発表者② 高山 恵

1 生徒の実態

「読書」に関しては、本を読むことに対する抵抗感は少ないものの、本を読む際、写真や挿絵だけを眺めて終わる様子や、同じ本を何度も繰り返し読み続ける（他の本に興味を持たない）様子が見られる。

一方、「伝え合うこと」に関しては、自分の意見を伝えることはできるものの、思い付いたことをその時々で口にするため、時系列がバラバラであったり、話の前後が繋がらなかつたりして、他者に話の内容が上手く伝わらないことがある。一方、「他者の意見を聞く姿勢」に関しては、少しずつ身に付いてきているものの、それに対して共感したり感想を持ったりする様子はあまり見られない。

2 目的（指導・工夫の意図）

中学部では、語彙力の育成と表現力の向上を目的に、朝の日常生活の指導の時間に読書の時間を設けている。その中で、まずは本に親しむ姿、興味をもって他の人の意見を聞く姿の育成を目指し、今年度は次のような取り組みを行った。

県立図書館と連携し、生徒が興味を持つと考えられる本を用意する。

月に数回、読み聞かせや教師がおすすめの本を紹介する時間を設ける。



読書（読む）



伝え合う（話す・聞く）

読み聞かせで全員が同じ本を読んだ後、感想を伝え合う活動を設定する。

期間を設け、その中で読んだおすすめの本を紹介する活動を設定する。

3 取組の実際・生徒の様子

本の展示	読み聞かせの様子	読書の様子	発表の様子
毎月、季節に合った本や日々の学習と関連した本を用意し、POPを付けて紹介した。また、生徒がおすすめの本として紹介したものにも同様にPOPを付け、展示した。	県立図書館から借りた本や、生徒が紹介した本を用いて読み聞かせを行った。読み聞かせ後は感想を述べ合う時間とし、それぞれ感じたことを共有した。	週の初めに教師がおすすめの本を紹介したり、友達が紹介した本を確認したりする時間を設けた。また、タイマーにより読書の終わりの時間を明確に示すことで、気にせず読書できるよう配慮した。	発表の仕方を提示したり、生徒の発表の良かった点を伝えたりすることで紹介の仕方の向上を図った。また、どこを紹介するか確認しやすいよう付箋を活用した。

4 考察（成果と課題・今後の改善策など）

今回の取組により、これまで繰り返し同じ本を読んでいた生徒達が教師や友達の紹介していた本を読むようになった。また、本を上手に紹介したいという意識が芽生え、これまで挿絵のみに着目していた生徒が文章にも目を向けるようになってきており、生徒の読書に関する興味関心の広がりを感じている。おすすめの本を紹介する場面において、他者の発表に対して「へえ〜」「すごい」「おもしろそう」といった発言が少しずつ増えてきたことも成果の一つである。一方で、おすすめの本の紹介において、考えが上手くまとまらず、何を伝えたいのか分かりづらい発表になってしまう生徒もいまだ散見される。今後も国語の授業と連携をとりながら、発表方法や表現方法を学習していくことで表現力の向上を目指したい。

情報を整理して説明するための取組

「言葉で絵を伝えよう」の単元で見られた生徒 T の変容

発表者① 山岸 梨々花 発表者② 山本 彩恵子

1 生徒の実態（生徒 T の実態）

教師や友達との会話を楽しむことが好きだが、自分の伝えたい情報だけを単語で話したり、話題を次々変えたりすることが多く、話の意図が相手に正確に伝わらないことがある。また、情報を項目ごとに整理して話したり、順序立てて説明したりすることにも困難さがある。

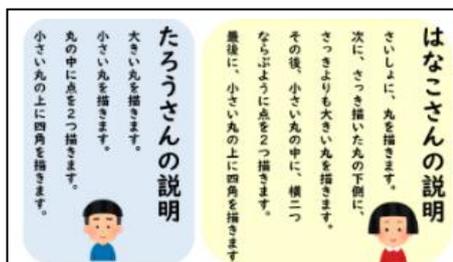


2 目的（指導・工夫の意図）

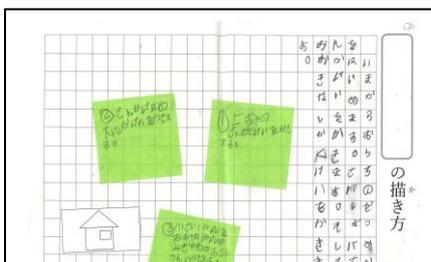
情報を整理して順序立てて説明する力をつけるため、昨年度と今年度「言葉で絵を伝えよう」の単元を設定した。昨年度は、順序を表す接続詞や文章の構成（はじめ、なか、おわり）の定着をねらい、概ね達成できていた。今年度は、それに加え、先に話題を伝えてから内容を話すことや、内容のまとまりを意識した構成を考えることを目標として取り組んだ。

3 取組の実際・生徒の様子

昨年度の取り組みでは、順序を表す接続詞や文章の構成については概ね達成できたものの、伝えたい情報を自分で整理することは難しく、教師と一緒に付箋を使って内容のまとまりの確認を行うことで、図①のように説明をすることができた。今年度は、話題を先に伝えてから内容を話すことや内容のまとまりを意識して説明できる図②のようなワークシートを使用した。話題について説明する部分を色付けしたり、内容のまとまりごとに区切ったりすることで、視覚的に情報を整理することができ、自分でポイントを押さえた説明をすることができた。

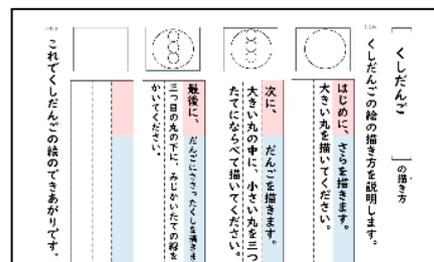


昨年度、文章の構成を意識するための手立てとして、例文の比較を行った。比較することで、はじめ、なか、おわりの構成や接続詞の必要性に注目することができた。



昨年度、付箋を使って、必要な情報や内容のまとまりを整理する活動を行ったことで、説明の内容や順序を確認することができた。

(図①：昨年度の成果物)



今年度、内容のまとまりや話題を先に伝えることを視覚的に意識できるワークシートを使用することで、自分で情報を整理することができた。(図②：今年度のワークシート様式)

4 考察（成果と課題・今後の改善策など）

友達や教師と話したいという強い思いはあるものの、相手に分かりやすい話し方をするに課題のある生徒 T だが、付箋に書き出した情報を手元で並べ替えたり、内容のまとまりごとに区切られたワークシートを使用したりすることで、伝えたい情報を視覚的に整理して、分かりやすい説明をすることができた。今後の課題としては、生徒 T が自ら情報を整理する手段を身に付け、活用できるようにしていくことである。今後はワークシート等の支援を減らしていくとともに、自分で付箋を使って内容をまとめたり順序を整理したりできる力をつけていきたい。